

『超高齢社会を考えるⅡ』

＜文理連携＞超高齢社会に挑む新たなテクノロジーとビジネス

平成30年7月7日（土）

午後2時～午後5時30分 西5号館B1教室

学習院大学

学習院大学
国際社会科学部 教授
伊藤 元重



「超高齢社会の到来と日本の成長戦略」



理化学研究所
医科学イノベーションハブ推進プログラム
副プログラムディレクター
桜田 一洋

「人工知能時代の新しい生命医科学」



慶應義塾大学
理工学部 准教授
慶應義塾基礎科学・基盤工学インスティテュート 主任研究員
牛場 潤一

「テクノロジーがもたらす医療福祉の未来」



『超高齢社会を考える II』

〈文理連携〉 超高齢社会に挑む新たなテクノロジーとビジネス

平成30年7月7日(土)

午後2時～午後5時30分

学習院大学

西5号館B1教室 JR目白駅から徒歩5分

午後 1:30 受付開始

午後 2:00-2:10 司会挨拶

午後 2:10-3:10

「超高齢社会の到来と日本の成長戦略」



学習院大学 国際社会科学部 教授
伊藤 元重

超高齢社会で日本の経済社会は大きな変化を求められている。こうした変化は日本の経済活力を削ぐように考えられがちだ。しかし、技術革新、アジアを市場として取り込むグローバル展開など、成長を促進する要因も少なくない。このセミナーでは、こうした中で日本が取り組むべき課題について整理してみたい。

午後 3:20-4:20

「人工知能時代の新しい生命医科学」



理化学研究所 医科学イノベーションハブ推進プログラム
副プログラムディレクター
桜田 一洋

生命の本質は多様性にある。しかしこまでの生命医科学は、統計処理によって多様性を捨象してきた。人工知能の進歩により、従来とは異なる形で生命の本質に迫る挑戦が始まっている。その概要を紹介する。

午後 4:30-5:30

「テクノロジーがもたらす医療福祉の未来」



慶應義塾大学 理工学部 准教授
慶應義塾基礎科学・基盤工学インスティテュート 主任研究員
牛場 潤一

少子高齢化が進む日本は、先進テクノロジーの開発や普及によって高品質な医療福祉サービスを実現するための壮大な実験場でもあります。世界が注目するこのステージを前に、私たちはどのように医療と福祉を「再発明」すればいいでしょうか？私たちが取り組む「スマートリハ」プロジェクトを例に、その考え方を紹介します。